

このたび中山書店から拙著「緩和医療」を上梓できました。

在宅という現場で患者・家族との葛藤の積み重ねの結果をまとめたものです。一介の開業医の論考ですので不十分なところが多々ありますが、是非ご一読の上、厳しいご批判、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

この本を書いている過程で、緩和医療が医療としてのアイデンティティは何かという意識を持っていないことが、緩和医療の昏迷を深めている一つの要因と改めて確信を致しました。本書は緩和ケアの医療的な視点、フレームを明確にすることを目的としたために、結果として、いまの学会の流れからすると挑戦的な内容になっていると思います。ただ、ホスピス緩和ケアの創始者であるイギリスのシシリー・ソンドースの論考を振り返ったものであり、いまの緩和ケアが見失ったものを思い起こそうというのが本来の趣旨です。

2018年9月 大岩孝司 記